

事業所名		サポートセンター アジト				支援プログラム		作成日		R7	年	11	月	14	日
法人（事業所）理念		大人（支援者側）も子ども（福祉事業所を利用していなくても）も福祉を楽しく、おもしろく、激しく。そういう地域づくりを目指す。													
支援方針		①子どもの世界観に寄り添う。 ②自分の気持ちを伝える大切さ、相手の気持ちを受け止める大切さ、人と関わる楽しみを見つける。そのために色々な体験や活動を通して、自分らしさを見つける。 ③小さな一歩を積み重ねて、大きな一歩を踏み出すきっかけ探しのお手伝い。													
営業時間		9	時	30	分から	18	時	30	分まで	送迎実施の有無		ありなし			
		支 援 内 容													
本人支援	健康・生活	・健康状態を家庭と学校等と連携を取り合う。特に行事や年度の変化に関して、情緒面の変化や小さな変化をキャッチするように取り組む。 ・個々の発達段階に応じて、生活環境・睡眠・排泄・食事などの生活リズムを身につけられるように支援する。 ・年齢（必要に応じ）、保育園と足並みを揃え午睡の確保に努める。													
	運動・感覚	・様々な活動や遊びの中から、身体の使い方を学ぶ。体幹や体力、力加減、強弱が習得できるようなプログラムを導入する。（自転車、野球、サッカー、水泳、砂浜遊びなど） ・視覚・聴覚・触覚・嗅覚・固有覚・前庭覚などの感覚活動。（手芸、アイロンビーズ、ドミノ、クッキングなど） ・年齢と個々の成長に合ったスモールステップを心がける。小さな「できた!」をたくさん積みかさね、褒められた体験に繋がるように、たくさんさんの言葉かけを心がける。													
	認知・行動	・言語理解が難しい場合などでも、絵カードを使った見通し、視覚情報にて提示するなど視覚的ツールを生かし、外出時の危険回避等の学びの場を設けていく。 ・S S Tを通して、訓練を行う。 ・言葉と行動のマッチングに繋がるように、たくさんさんの言葉かけを心がける。													
	言語コミュニケーション	・日常会話の中から学校での「出来事を伝える」「家での出来事を伝える」「自分の考えや気持ちを伝える」を狙いとした場面を設ける。「本当はこうなんだ」という本人の想いを引き出すために「傾聴する」「寄り添う」を心がける。 ・言葉以外の身振り、絵カード、筆談等のコミュニケーションスキルの習得。その中から「こうしたいんだ」という自分の意思を伝えられるよう、支援しながら引き出していく。 ・言葉と行動のマッチングに繋がるように、たくさんさんの言葉かけを心がける。													
	人間関係社会性	・アタッチメント形成（自尊心を高める・認める・安心感・存在意義） ・1日1日の積み重ねで自信に繋げ、自己肯定感の向上を図る。 ・個々から小集団、小集団から集団、集団から個への評価。成功体験やできていることを言葉で本人へ伝える。それを受け止めて達成感へ繋げる。													
家族支援		送迎時に取り組んだ活動や学校への申し送り、家庭での様子を共有していく。・モニタリング時には、活動の様子や本人の様子をよりイメージできるようにタブレット等の活用。何か気づきがある場合は、その都度様子の写真などを提供する。ホームページのブログ更新。						移行支援		学校との情報共有、他事業所、児童館、地域の公共施設等での活動を導入。保育園から幼稚園 小学校への移行期での過ごしを共有していく。今までの過ごしを、密に情報共有していく。					
地域支援・地域連携		ハロウィンの時には地域の企業さんの協力を得て、交流の場を設ける。夏・年末のあいさつ回りには児童も連れる。普段の生活の買い物学習を地域で行い、企業さんと顔を合わせる場を提供し、あいさつの大切さを学ぶ。						職員の質の向上		定期的に法定研修を受ける、時間・方法を工夫しスキルアップを図る。月に1度全体会議を設けるよう努める。モニタリングの報告や共有の場を設け、双方の思いをくみ取る場面を大切にする。					
主な行事等		季節ごとに応じた装飾作りや他事業所交流、保護者交流会、年1回のお泊り会、ハロウィン（地域めぐり）、泳ぎとセットでビーチクリーン、地域散歩で街クリーン、クリスマスはリアルチキンなど。													